



し せい
至 誠
うえ まつ けん いち
(植松 健一)

富士宮駅前広場の周辺施設整備について

問 富士宮駅前広場の周辺施設整備について、景観という部分では、やはり富士山の眺望について期待したい。何かアイデアはあるか。

部長 令和5年度に実施する詳細設計では、ペDESTリアンデッキからの富士山眺望について、眺望を阻害する看板等の施設を可能な限り除却または移設し、眺望できる場所にベンチを置くなどを計画していきたいと考えている。また、天気により富士山が見えない場合に配慮し、デジタルサイネージを活用したイメージ写真や、市内各地の富士山眺望点へどのように誘導できるのかなど、設計に反映していきたいと考えている。

カーボンニュートラルL Pガス導入について

問 公共施設の一部において、環境に優しいカー

ボンニュートラルL Pガスを導入しますとは、具体的にはどのような計画か。

部長 令和5年度に現在プロパンガスを使用している公共施設のうち、ガスの使用量が比較的多い市立保育園12園とあすなる園の13施設において、カーボンニュートラルL Pガスの導入を予定している。こうしたカーボンニュートラルL Pガスについては、取扱いが始まったばかりであることから、市が脱炭素化に向けて先導的に取り組むことで、市民及び事業者への普及にもつなげていきたい。

民間での工業団地造成に向けた取組について

問 民間による工業団地造成に向けた取組について、令和5年度に向けた見通しはあるのか。

部長 現在幾つかの企業から問合せをいただいているが、工業団地開発には、法令などをはじめ、様々な課題をクリアする必要があるため、今後も具体的な相談の中で、その手法を検討しながら、開発計画の具現化に向けた支援を継続していきたいと考えている。

ふ がく かい
富岳会
もち づき のり お
(望月 則男)

「はじめに」について

問 富士山の世界文化遺産登録で何がどのように変わったのか。世界遺産センターの入館者数の推移、街中の回遊者の調査は行っているか。

部長 入館者数の近年の推移は、世界遺産センター提供の資料より、コロナ前の令和元年度が年間31万5千人、令和2年度は7万4千人、令和3年度は8万9千人、そして令和4年度は1月末までで9万6千人。今後、街中への人の流れについて、何かしらの調査等をしていきたい。

「結婚・出産・子育ての希望実現プロジェクト」について

問 安心して出産するためにも市立病院だけでなく、民間病院の誘致施策について伺う。

部長 当市の分娩施設数は、平成20年度では市

立病院のほか、民間産婦人科医院及び助産所合わせて6か所、平成21年3月と平成31年3月、令和3年3月に1か所ずつ産婦人科医院が分娩の取扱いを終了、現在は富士宮市立病院と民間助産所2か所。市内に出産できる病院や診療所が増えることは、市民や妊産婦に対し安心を与えることにつながるが、病院や診療所の経営が困難な状況も事実であり、現時点では病院や診療所が増える見込みはない。

「人口減少に打ち克つスマート自治体プロジェクト」について

問 空き家、空き地、耕作放棄地などへの対策こそDXを活用できると考えるがいかがか。

部長 そのような仕組みは、情報連携やシステム構築に課題が多く、独自に構築することが難しいもの。システムも市場に見当たらないものであるため、短期間での実現は非常に困難である。デジタル技術の進展は目まぐるしいものがあるので、情報収集を行い、動向を把握し、実装についての可能性を調査していきたい。